

# 家庭教育支援者研修会

日時:令和4年12月4日(日) 10:00~14:40

場所:郡山市労働福祉会館 中ホール

参加者:36名



## 1 活動紹介「子育て支援活動の取り組みについて」

マミーズガーデン 代表 阿部こずえ氏 柳沼涼子氏 佐藤良恵氏

- 2014年に1歳の子供をもつ母親3人で立ち上げたボランティア団体です。現在は女性スタッフ5名で須賀川市を中心に活動しています。
- スタッフは、ほぼ県外や市外からの移住者です。自身が地域の子育て情報の少なさや、わかりにくさを感じながら子育てをしていた経験から、“須賀川に住むママたちが心も体もリフレッシュして、もっと輝いてくれますように”“ママがイキイキすることで家庭円満”“地域の活性化へつながりますように”という思いを込めて立ち上げました。
- 主な活動は①SNS等を活用した子育てに関する情報発信、②子育てイベントの企画・運営、③社会教育団体等から講師等の依頼を受けての活動です。特に②については個々のスタッフがもつスキルを生かしたイベントを企画・運営しています。
- たくさんの人に参加してもらいたいと考え、様々な助成金を活用してイベントを実施しています。
- 今後も育児に携わる人の気持ちに寄り添って、子育てをみんなで楽しむことができる地域社会の実現を目指します。



マミーズガーデンのブログはこちら→<https://ameblo.jp/mammys-garden/>

## 2 講話「子どもが子どもでいられる支援を～ヤングケアラーの問題から考える～」

福島県子ども未来局児童家庭課 主査 高橋 資広氏

- 福島県としては、早期発見・早期支援や、関係機関の連携による支援を進めています。特に支援については、ヤングケアラーとなっている子どもだけでなく、家族全体のアセスメントを行い、各機関が連携して支援を行うことが大切です。
- 縦割り行政による弊害をなくすため、国の取り組みとして令和5年4月に「こども家庭庁」が設置され、特に支援を必要とする子どものサポートが行われます。また、児童福祉法が一部改正され、市町村の子ども家庭総合支援拠点と子育て世代包括支援センターを見直し、「こども家庭センター」の設置が明記されました(努力義務)。
- ヤングケアラーと思われる子どもを発見した場合は、本人や家族の意思、希望を確認・尊重することが大切です。また、支援を進めるにあたっては、プライバシーに十分な配慮が必要です。
- ヤングケアラー支援においては、子どものもつ支援ニーズに気づくこと、各関係機関が支援の主体としての意識をもつことが大切です。



### 3 講義・演習「『ペアレントトレーニング』を学ぶ」

郡山家庭教育を支援する会 圓谷 円 氏

- ペアレントトレーニングは、望ましい行動を効果的にしつける方法を体験的に学習し、ほめる、教えるなどの肯定的なしつけができるためのトレーニングです。また、子どもにも自分自身をコントロールする方法を学ばせることができます。
- ペアレントトレーニングには全部で6つのセッションがあります。今回はセッション3「効果的なほめ方」、セッション4「予防的教育法」、セッション5「問題行動を正す教育法」、セッション6「自分自身をコントロールする教育法」について、それぞれ動画を視聴した後、参加者同士で設定場面についてのロールプレイ体験を行いました。
- それぞれのセッションごとに、上手にトレーニングを行うためのヒントや、どのような内容を、どのような順序で行えば良いか等が示され、参加者はお互いに意見を出し合いながら、ロールプレイ体験を行いました。
- 何事も「まずはやってみる」「行動してみる」という気持ちが大切です。不安が生じるときには「なんとかなるさ」と考えて、勇気をもって一歩踏み出してみると良いです。



#### 参加者の声

##### 1 活動紹介について

- スタッフそれぞれがもった得意なことを活かし、子どもも親も安心して活動できる事業を企画・運営されている内容をお聞きすることができ、素晴らしい取り組みをされていると感じました。
- 講師の方々とは友人なのですが、出会ったのは子ども達が小学生になった後でしたので、同じ地域にいながらも、どちらかという家にこもりがちな子育てをしていた自分に、こんな素敵な場があるよと教えてあげたい気持ちになりました。自分の周りの小さなお子さんのいる家庭にマミーズガーデンをどんどん紹介していきたいと思いました。

##### 2 講話について

- みんながヤングケアラーの担当…という表現にとても納得しました。縦割りになりがちな業務の中で、連携して支援する必要性を感じました。大変分かりやすい説明をありがとうございました。聞きたかった内容でした。
- 中高生の調査結果を解説していただくことで、よりヤングケアラーの問題点や支援の必要性が理解できて参考になりました。「関係機関の連携による支援」の大切さを力説されており、納得しました。国の「こども家庭庁」「県・市町村」の取り組みに期待したいです。

##### 3 講義・演習について

- 父兄も共働き、一人親世帯も増え、家庭だけでは育てきれない時代になってきました。未就学・小学校等でもぜひ実施してほしい。
- 演習を通しての学びは、実体験とともにふり返りながら学べたことで、子どもたちへの向き合い方に生かしていけると感じました。
- 自分の子育ての頃を思い出し赤面でした。ロール体験(プレイ)は、問題行動を止める、次は…と順番があることを知り、最後は自分をコントロールできると良いことも納得できました。

